“おもてなし”の前に必要なこと

「行きたい国から行ける国に」

リッツ・アレクサンダー

山形市高瀬の紅花畑で

私は山形が大好きです。米国コロラド州で生れた私は、中学生の時に山形県・コロラド州の交流事業で初めて山形を訪れ一目ぼれしました。霞城公園の済生館三層楼を交流団のひとりとして眺めた日のことがまるで昨日のことのようです。この出会いをきっかけに、私は高校生活を山形県で送りたいという気持ちが募り、鶴岡の羽黒高校で留学生活を始めることになりました。高校生活の日々を振り返ると、幸せな思い出しかありません。下校途中、田んぼの水面に映る夕日を目にしながら、「この先もずっとここにいたい」と願ったことを覚えています。私のハイティーン時代は、庄内の四季とともに流れ、学友たちと交わす庄内弁も、日ごとに滑らかになっていきました。

山形に初めて足を踏み入れ10年が過ぎ、今この原稿を書いている私は24歳の社会人です。この間、国内は40都道府県に足を運び、世界は30カ国を旅しました。それでも山形県より好きな場所は未だに見つかっていません。山形県や東北の潜在力を生かして成長に貢献したいと思い、山形市民となり地元の旅行会社でインバウンド事業を進めています。

東京での大学生活中、年に何度も外国籍の学友を山形に連れてきましたが、彼らはそのたびに「こんなに魅力的な場所だとは思わなかった」と同じ感想を漏らしました。しかし、魅力的な観光素材は山ほどありながら、コロナ前に東北を訪れた訪日旅行者数は国内全体のわずか１％でした。その大きな理由は、旅先にアプローチするためのインフラ不足、特に２次交通の整備不足であると考えています。例えば、銀山温泉です。そのたたずまいが世界中でヒットしたジブリ映画の町にそっくりだと、人気が広がりました。しかし、高い知名度にもかかわらず、実際に同温泉を訪れた訪日客はコロナ前の統計で山形県全体の２％程度でした。その理由は同温泉公式サイトの「アクセス」ページにも記されています。「山形駅で山形新幹線から奥羽線に乗り換え大石田駅へ（40分）。大石田駅から尾花沢行きバスに乗り換え尾花沢へ（15分）。尾花沢から銀山温泉行きのバスに乗り換え銀山温泉へ（40分）」。どんなに魅力ある地域でも、アクセスが良くなければ、外国人の足は向きません。来訪者データはこの事実を示しています。

四国は東北と同様、インバウンドに縁が薄かった地域です。私はこの夏、四国を旅しました。香川県の直島は、1985年まで人口も景気も下降してきた瀬戸内の小さな島です。有名な建築家がデザインした美術館建設をきっかけに、アートをテーマにした島興しが広がり、今や毎年80万人の観光客を呼んでいます。四国は山形に劣らず山深い土地柄ですが、その中央部にある祖谷渓では、深いＶ字谷が続く地形を生かして、ラフティングやボート、クイックジャンプ、ツリートレッキングなどのアドベンチャーツーリズムをつくり、体験型の誘客に力を入れていました。新幹線もない四国ですが、成果を出している観光地には、電車やバスなどで問題なく行けたことを報告します。

新型コロナ以前、国内観光だけでも、日本経済に対する直接・間接合計の効果はおよそ８％、雇用に対する同様な効果は10.4％に上っていました。観光収入は、旅行会社やホテル・旅館、地元の飲食店や様々な小売業、その仕入れ先まで、地域経済に広くいきわたります。観光収入を拡大できれば、雇用が拡大し、若い起業家が新しいビジネスを開くチャンスも広がります。今の旅行市場のキーワードは「行きたい国より行ける国」だそうです。おもてなしが意味を持つのも、来てもらってからです。旅行、観光が及ぼす地域経済への大きな影響を真摯に捉え、観光インフラ整備に力を入れる時ではないでしょうか。

豊かな観光資源を、観光客が問題なく享受できる手だてが講じられれば、若者も山形に残る理由を見出し、県民も故郷に心から感謝する日が来るものと思います。

（山新観光㈱営業部インバウンド担当）